

2020年11月10日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2269 URL <https://www.meiji.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 川村 和夫
 問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長 (氏名) 山縣 洋一郎 TEL 03-3273-3917
 四半期報告書提出予定日 2020年11月11日 配当支払開始予定日 2020年12月8日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)
(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	584,976	5.4	50,401	5.9	50,655	3.9	28,733	9.8
2020年3月期第2四半期	618,077	1.0	47,573	8.5	48,733	11.1	31,862	16.8

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 34,458百万円 (12.8%) 2020年3月期第2四半期 30,555百万円 (30.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	198.05	
2020年3月期第2四半期	219.68	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	1,069,914	619,590	54.6	4,025.23
2020年3月期	998,920	597,573	56.3	3,879.18

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 584,063百万円 2020年3月期 562,753百万円

(注) 2021年3月期第1四半期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		70.00		80.00	150.00
2021年3月期		75.00			
2021年3月期(予想)				75.00	150.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,253,000	0.0	110,000	7.1	111,000	7.4	69,500	3.2	479.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 明治食品(広州)有限公司、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]14ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期2Q	152,683,400 株	2020年3月期	152,683,400 株
------------	---------------	----------	---------------

期末自己株式数

2021年3月期2Q	7,582,984 株	2020年3月期	7,613,416 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期2Q	145,078,939 株	2020年3月期2Q	145,045,686 株
------------	---------------	------------	---------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

(アナリスト・機関投資家向け電話会議資料の入手方法について)

当社は、2020年11月12日(木)にアナリスト・機関投資家向けの電話会議を開催する予定です。この電話会議におけるプレゼンテーション資料および音声情報は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	11
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	14
(追加情報)	14
(セグメント情報等)	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「2020中期経営計画」の最終年度を迎え、基本コンセプト「継続的戦略課題への取り組み」と「成長に向けた新たな挑戦」に基づき、「コア事業での高シェア・高収益の実現」「海外市場での成長基盤の確立に向けた積極的な事業拡大」「健康を軸とした新たな価値領域での仕掛け」「構造改革の継続的な実行と個別事業課題の克服」「経営基盤の進化とサステナビリティの推進」に向けた取り組みを進めております。

2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、食品セグメントでは個人消費動向が不安視され、医薬品セグメントでは医療機関受診患者数が大幅に減少していることに加えて薬価改定の影響を受けるなど、厳しい環境下にあります。しかしながら、両セグメントともに生活に必要な食品・医薬品の安定供給に万全を期すとともに、費用の効率的な支出に取り組んでいます。また「2020中期経営計画」に沿って、コア領域・成長領域に経営資源を重点的に投下し、生産性の向上の取り組みも着実に推進しています。

当第2四半期連結累計期間の売上高は5,849億76百万円（前年同期比5.4%減）、営業利益は504億1百万円（同5.9%増）、経常利益は506億55百万円（同3.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は287億33百万円（同9.8%減）となりました。

(単位：億円)

	2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減額	主な増減要因
売上高	6,180	5,849	△331	詳細はセグメント別の概況に記載
営業利益	475	504	28	詳細はセグメント別の概況に記載
営業外収益	31	21	△9	—
営業外費用	19	19	△0	為替差損△3、持分法による投資損失+2
経常利益	487	506	19	—
特別利益	11	10	△1	固定資産売却益△5、投資有価証券売却益△5、関係会社株式売却益+9
特別損失	26	45	18	貸倒引当金繰入額+10、減損損失+2
税金等調整前 四半期純利益	472	471	△0	—
法人税等	146	163	17	—
非支配株主に帰属する 四半期純利益	7	20	13	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	318	287	△31	—

当社グループでは、世界的な脅威となっている新型コロナウイルス感染症の予防に貢献すべく、ワクチンの開発・供給の取り組みを次のとおり進めています。

当社の事業子会社であるKMバイオロジクス株式会社では、国立感染症研究所、東京大学医科学研究所、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と協業し、新型コロナウイルス感染症に対する不活化ワクチンの開発を進めています。2020年5月に国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が実

施する創薬支援推進事業の公募研究開発課題「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するワクチン開発（企業主導型）」1次公募に採択され、8月には同2次公募にも採択されました。9月には非臨床試験を開始しており、今期中に国内臨床試験を開始すべく準備を進めています。加えて、この不活化ワクチンを国内に早期供給すべく、7月に厚生労働省「ワクチン生産体制等緊急整備事業（第1次公募）」の事業者に採択され、生産に必要な設備の整備も進めています。

また6月に、当社の事業子会社である Meiji Seika ファルマ株式会社とKMバイオロジクス株式会社は、アストラゼネカ株式会社が日本へ導入予定の新型コロナウイルスワクチンについて、国内安定供給に向けた協議を進めることに合意しました。KMバイオロジクスがアストラゼネカ社から原液の提供を受けて製剤化（バイアル充填・包装）した後、Meiji Seika ファルマが保管・配送を行い、両社でアストラゼネカ社と協力して国内流通に必要な準備を行う予定です。

セグメント別の概況は次のとおりです。

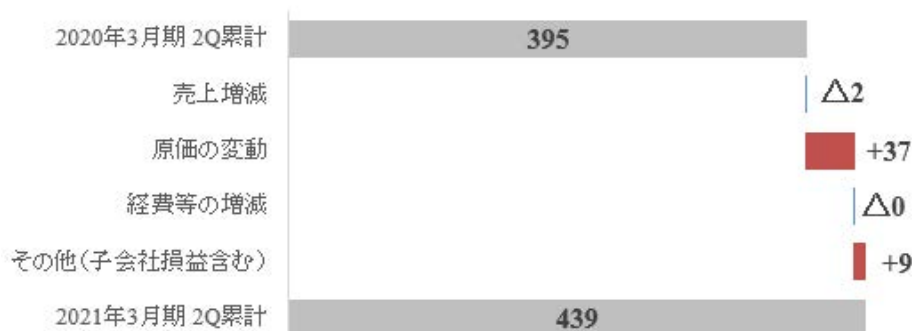
①食品セグメント

- ・売上高は前年同期を下回りました。発酵デイリー事業や栄養事業は前年同期を上回り、加工食品事業や海外事業は前年同期並みとなりました。菓子事業は前年同期を大幅に下回りました。また、その他国内子会社は、株式譲渡により3社が連結対象子会社から除外されたことなどにより、前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は、ヨーグルトやプロバイオティクスなどの増収に加え、販促費などのコストコントロールに努めた結果、前年同期を大幅に上回りました。

(単位：億円)

		2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
食 品	売上高	5,232	4,965	△5.1%
	営業利益	395	439	11.1%

営業利益増減分析 (単位：億円)



※食品セグメントでは、2021年3月期より一部事業において原価計上方法を変更しており、上記の営業利益増減分析にはその内容を反映しております。

グループ会社からの仕入品の原価を2020年3月期までは全て製造直接費として「原価の変動」に計上していましたが、2021年3月期より製造直接費と製造間接費に分けて計上しております。これにより、製造直接費が減少し「原価の変動」で30億円の増益要素となり、製造間接費は増加し「経費等の増減」で30億円の減益要素となっております。

事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率		2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
発酵 デイリー	1,624	1,641	1.1%	発酵 デイリー	207	290	40.1%
加工食品	914	908	△0.7%	加工食品	48	44	△9.8%
菓子	523	469	△10.4%	菓子	68	35	△48.2%
栄養	469	480	2.5%	栄養	88	85	△2.6%
海外	232	233	0.4%	海外	8	6	△25.2%
その他 国内子会社	1,467	1,232	△16.0%	その他 国内子会社	20	17	△16.9%
				全社共通費	△46	△40	—

【発酵デイリー事業】 (ヨーグルト、牛乳類、飲料等)

- ・売上高は前年同期を上回りました。体調管理意識の高まりや巣ごもり消費の拡大を背景に、ヨーグルトや「明治おいしい牛乳」は増収となり、プロバイオティクスは大幅な増収となりました。加えて「ザバスミルクプロテイン」も好調に推移しました。
- ・営業利益は、プロバイオティクスやヨーグルトの増収に加え、販促費などの削減により前年同期を大幅に上回りました。

【加工食品事業】 (チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等)

- ・売上高は、家庭内需要の拡大により市販アイスクリームや市販チーズは好調に推移しました。しかし、国内における外出自粛要請などの影響で、特に第1四半期において業務用食品が大幅な減収となったことにより、全体では前年同期並みとなりました。
- ・営業利益は、物流費や販促費、減価償却費などの増加により減益となりました。

【菓子事業】 (チョコレート、グミ、ガム等)

- ・売上高は前年同期を大幅に下回りました。「きのこの山・たけのこの里」は好調に推移し、健康志向チョコレートは前年同期並みとなりましたが、コンビニエンスストア向け商品が減収となり、チョコレート全体では減収となりました。また、グミやガムは通勤・通学やオフィス需要の減少により、大幅な減収となりました。
- ・営業利益は、販促費などの経費削減に努めましたが、減収の影響により前年同期を大幅に下回りました。

【栄養事業】 (スポーツ栄養、乳幼児ミルク、流動食、美容、OTC等)

- ・売上高は前年同期を上回りました。スポーツプロテイン「ザバス」は、運動不足解消ニーズの高まりや顧客層の拡大により大幅な増収となり、流動食「明治メイバランス」も好調に推移しました。スポーツアミノ酸「ヴェーム」はスポーツイベントの減少により大幅な減収となりました。
- ・営業利益は、経費削減に努めましたが、2019年11月に稼働した粉末プロテイン工場の減価償却費の増加などにより、前年同期を下回りました。

【海外事業】 (海外子会社、輸出)

- ・売上高は前年同期並みとなりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中国子会社の菓子事業や牛乳・ヨーグルト事業は減収となりましたが、アイスクリーム事業は巣ごもり消費の拡大により増収となりました。
- ・営業利益は、中国子会社の菓子事業や牛乳・ヨーグルト事業、米国子会社の減益が響き、全体では前年同期を大幅に下回りました。

【その他国内子会社】 (飼料、砂糖および糖化穀粉、物流等)

- ・売上高は、畜産品などの子会社3社が株式譲渡により連結対象子会社から除外されたことに加え、物流子会社や砂糖商社などの減収により、前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は、物流子会社などの減益により前年同期を大幅に下回りました。

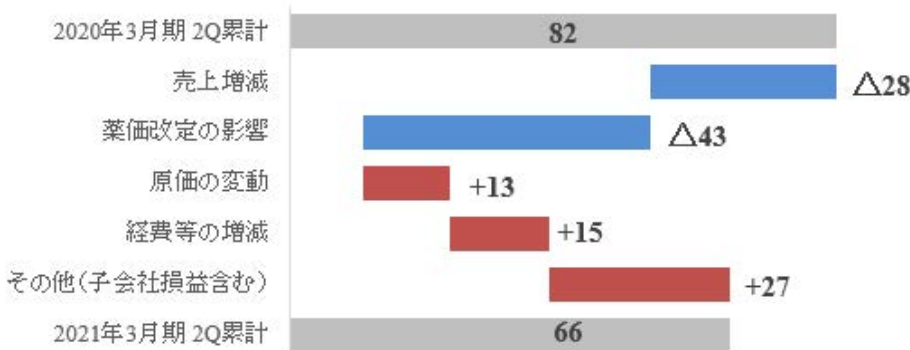
②医薬品セグメント

- ・売上高は前年同期を下回りました。国内事業は、薬価改定に加えて新型コロナウイルス感染症拡大の影響により前年同期を下回りました。海外事業も同感染症拡大の影響により、前年同期を大幅に下回りました。KMバイオロジクスは主力品の増収により、前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、KMバイオロジクスが大幅増益となった一方、国内事業の営業損失により前年同期を大幅に下回りました。

(単位：億円)

		2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
医薬品	売上高	953	891	△6.6%
	営業利益	82	66	△19.7%

営業利益増減分析 (単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率		2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
国内	657	631	△3.9%	国内	53	△11	—
海外	222	188	△15.3%	海外	20	26	30.8%
KMバイオ ロジクス	168	184	9.0%	KMバイオ ロジクス	8	33	319.1%
消去	△94	△112	—	修正・消去	△0	16	—

【国内事業】

- ・売上高は前年同期を下回りました。インフルエンザワクチンの早期出荷などによりヒト用ワクチンは大幅な増収となりました。一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて医療機関受診患者数が減少したことにより、抗菌薬「メイアクト」やジェネリック医薬品は大幅な減収となりました。抗うつ薬「リフレックス」も薬価改定の影響により大幅な減収となりました。
- ・営業利益は前年同期を大幅に下回りました。経費削減に努めましたが、主力品の減収と薬価改定の影響を大きく受けました。

【海外事業】

- ・売上高は前年同期を大幅に下回りました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた中国の子会社は、大幅な減収となりました。
- ・営業利益は、インドネシアやインドの子会社などにおける経費削減が寄与し、前年同期を大幅に上回りました。

【KMバイオロジクス】

- ・売上高は、主力のインフルエンザワクチンが大幅に伸長したに加え、B型肝炎ワクチン「ビームゲン」や血漿分画製剤が好調に推移し、前年同期を上回りました。
- ・営業利益は前年同期を大幅に上回りました。増収の影響に加え、インフルエンザワクチンの生産効率が向上したことや棚卸評価減の金額が減少したことなどが寄与しました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(単位：億円)

	2020年3月期	2021年3月期 第2四半期累計	対前期末	
			増減額	主な増減要因
流動資産	4,168	4,506	337	現金及び預金+259、 原材料及び貯蔵品+50、商品及び製品+39
固定資産	5,820	6,192	372	投資有価証券+358
資産合計	9,989	10,699	709	—
流動負債	2,565	3,050	484	コマーシャル・ペーパー+500 短期借入金+77、未払法人税等+41、 支払手形及び買掛金△118
固定負債	1,448	1,453	4	繰延税金負債+11、長期借入金△2
負債合計	4,013	4,503	489	—
株主資本	5,536	5,712	175	利益剰余金+169
その他の包括利益 累計額	90	128	37	その他有価証券評価差額金+40、 為替換算調整勘定△18
非支配株主持分	348	355	7	—
純資産合計	5,975	6,195	220	—
負債純資産合計	9,989	10,699	709	—
有利子負債	1,067	1,641	574	コマーシャル・ペーパー+500、 短期借入金+77、長期借入金△2
自己資本比率	56.3%	54.6%	△1.7pt	—

②キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2020年 3月期 第2四半期 累計	2021年 3月期 第2四半期 累計	対前年 同期 増減額	主な増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	340	408	68	法人税等の支払額+91、仕入債務の増加+71、 売上債権の増加△135
投資活動による キャッシュ・フロー	△363	△603	△240	投資有価証券の取得による支出△320、 有形固定資産の取得による支出+56、連結の範囲の変更を 伴う子会社株式の売却による収入+21
財務活動による キャッシュ・フロー	7	448	440	コマーシャル・ペーパーの増加+440
現金及び現金同等物 の四半期末残高	225	618	392	—
フリー・ キャッシュ・フロー	△23	△195	△172	—

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年5月22日の「2020年3月期決算短信」で公表いたしました2021年3月期の連結業績予想に変更はありません。

当社グループでは、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、世界で約17,000人の従業員やその家族の安全と健康を確保するため、テレワークの推奨、出張自粛などさまざまな対策を講じております。現時点では生産体制および原材料調達において大きな影響は生じておりませんが、今後も状況変化に応じて必要な対策を速やかに実施することにより安定的な製品供給に努めるとともに、「食と健康」に関わる企業グループとしての責務を果たしてまいります。

引き続き事業活動に与える影響を慎重に見極め、今後、連結業績予想に修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,446	63,434
受取手形及び売掛金	179,931	181,872
商品及び製品	111,028	114,984
仕掛品	3,729	5,548
原材料及び貯蔵品	58,542	63,574
その他	27,454	23,604
貸倒引当金	△1,247	△2,404
流動資産合計	416,885	450,614
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	353,843	355,350
減価償却累計額	△172,887	△175,818
建物及び構築物 (純額)	180,956	179,531
機械装置及び運搬具	539,437	547,813
減価償却累計額	△384,661	△386,264
機械装置及び運搬具 (純額)	154,775	161,548
工具、器具及び備品	58,049	60,270
減価償却累計額	△43,478	△45,654
工具、器具及び備品 (純額)	14,570	14,615
土地	69,363	67,984
リース資産	3,046	2,898
減価償却累計額	△2,166	△2,147
リース資産 (純額)	880	750
建設仮勘定	23,645	21,513
有形固定資産合計	444,191	445,945
無形固定資産		
のれん	57	50
その他	14,240	14,442
無形固定資産合計	14,297	14,492
投資その他の資産		
投資有価証券	84,598	120,424
退職給付に係る資産	15,500	16,101
繰延税金資産	16,341	14,841
その他	7,171	7,565
貸倒引当金	△66	△71
投資その他の資産合計	123,545	158,861
固定資産合計	582,034	619,299
資産合計	998,920	1,069,914

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,317	100,426
短期借入金	30,874	38,575
コマーシャル・ペーパー	-	50,000
未払費用	45,457	45,042
未払法人税等	12,164	16,343
賞与引当金	12,090	10,962
返品調整引当金	256	211
売上割戻引当金	1,908	2,628
その他	41,451	40,818
流動負債合計	256,520	305,010
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	55,890	55,608
繰延税金負債	8,399	9,511
退職給付に係る負債	55,410	55,586
役員退職慰労引当金	121	85
その他	5,004	4,522
固定負債合計	144,826	145,313
負債合計	401,347	450,323
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	100,245	100,693
利益剰余金	453,729	470,725
自己株式	△30,288	△30,163
株主資本合計	553,687	571,256
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,968	30,972
繰延ヘッジ損益	53	△2
為替換算調整勘定	△3,279	△5,132
退職給付に係る調整累計額	△14,677	△13,031
その他の包括利益累計額合計	9,066	12,806
非支配株主持分	34,819	35,526
純資産合計	597,573	619,590
負債純資産合計	998,920	1,069,914

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	618,077	584,976
売上原価	394,231	368,381
売上総利益	223,846	216,594
販売費及び一般管理費	176,273	166,192
営業利益	47,573	50,401
営業外収益		
受取利息	118	145
受取配当金	731	702
為替差益	-	260
その他	2,263	1,062
営業外収益合計	3,112	2,170
営業外費用		
支払利息	384	339
持分法による投資損失	299	598
為替差損	398	-
その他	869	979
営業外費用合計	1,952	1,916
経常利益	48,733	50,655
特別利益		
固定資産売却益	573	35
投資有価証券売却益	591	62
関係会社株式売却益	-	928
特別利益合計	1,165	1,026
特別損失		
固定資産廃棄損	1,391	1,447
減損損失	756	1,055
貸倒引当金繰入額	-	1,078
その他	546	942
特別損失合計	2,693	4,523
税金等調整前四半期純利益	47,205	47,158
法人税等	14,630	16,372
四半期純利益	32,574	30,785
非支配株主に帰属する四半期純利益	711	2,052
親会社株主に帰属する四半期純利益	31,862	28,733

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	32,574	30,785
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,307	4,020
繰延ヘッジ損益	6	△57
為替換算調整勘定	△1,502	△1,459
退職給付に係る調整額	1,024	1,615
持分法適用会社に対する持分相当額	△239	△446
その他の包括利益合計	△2,019	3,672
四半期包括利益	30,555	34,458
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	29,874	32,473
非支配株主に係る四半期包括利益	681	1,984

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	47,205	47,158
減価償却費	22,401	23,607
減損損失	756	1,055
のれん償却額	7	7
有形固定資産除却損	1,392	1,448
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△14	1,161
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△886	△1,002
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,293	2,525
受取利息及び受取配当金	△849	△848
支払利息	384	339
持分法による投資損益 (△は益)	299	598
有形固定資産売却損益 (△は益)	△565	△2
関係会社株式売却損益 (△は益)	-	△928
売上債権の増減額 (△は増加)	10,648	△2,934
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△6,732	△11,954
仕入債務の増減額 (△は減少)	△17,788	△10,628
その他	△7,539	△671
小計	50,013	48,931
利息及び配当金の受取額	1,242	1,377
保険金の受取額	1,432	-
利息の支払額	△371	△325
法人税等の支払額	△18,309	△9,160
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,007	40,823
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△36,843	△31,218
無形固定資産の取得による支出	△1,944	△2,045
有形及び無形固定資産の売却による収入	1,884	1,606
補助金の受取額	-	2,030
投資有価証券の取得による支出	△70	△32,072
投資有価証券の売却による収入	592	115
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	2,154
その他	67	△902
投資活動によるキャッシュ・フロー	△36,314	△60,331
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	8,060	10,155
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	6,000	50,000
長期借入れによる収入	358	2,267
長期借入金の返済による支出	△2,505	△5,105
自己株式の増減額 (△は増加)	292	258
配当金の支払額	△10,853	△11,587
非支配株主への配当金の支払額	△154	△607
その他	△410	△526
財務活動によるキャッシュ・フロー	787	44,852
現金及び現金同等物に係る換算差額	△364	△616
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,883	24,728
現金及び現金同等物の期首残高	24,481	37,110
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,598	61,839

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

(オーストアジア社の株式取得の概要)

当社の連結子会社である株式会社明治は、AustAsia Investment Holdings Pte LTD. (以下、「オーストアジア社」)の株主であるJapfa LTD.と2020年4月15日にオーストアジア社の株式の一部を取得することに合意し、2020年7月3日に25.0%の株式を取得したことに伴い、オーストアジア社は持分法適用関連会社となりました。

なお、被投資会社オーストアジア社の概要は以下の通りです。

商号(被投資会社の名称)	AustAsia Investment Holdings Pte LTD.
主な事業内容	中国における生乳生産事業など
持分法適用開始日	2020年7月1日
株式取得後の議決権比率	25.0%
その他	オーストアジア社は、2020年4月に行われた事業再編により、中国において生乳生産事業を中心に従事する会社となりました。

(1) 当第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれている被投資会社の業績の期間

被投資会社であるオーストアジア社の決算日は12月末日であり、連結決算日と3ヶ月異なっております。

オーストアジア社に対する持分法適用開始日は2020年7月1日であるため、当第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書にオーストアジア社の業績は含めておりません。

(2) 実施した会計処理の概要

① 被投資会社の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	27,805百万円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	734百万円
取得原価		28,540百万円

② 発生した投資有価証券に含まれる「のれん」相当の金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(i) 発生した投資有価証券に含まれる「のれん」相当の金額

13,839百万円

上記は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

(ii) 発生原因

取得原価が株式の取得日における被投資会社の時価純資産に係る当社の持分額を上回ったことによるものであります。

(iii) 償却方法及び償却期間

効果の発現する期間にわたって、均等償却します。なお、償却期間については、取得原価の配分の結果を踏まえて決定する予定であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	522,971	95,106	618,077	-	618,077
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	251	283	534	△534	-
計	523,222	95,390	618,612	△534	618,077
セグメント利益	39,548	8,227	47,775	△202	47,573

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△202百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに
配分していない全社費用△208百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	496,281	88,694	584,976	-	584,976
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	313	432	746	△746	-
計	496,594	89,127	585,722	△746	584,976
セグメント利益	43,935	6,610	50,545	△143	50,401

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△143百万円には、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに
配分していない全社費用△147百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。